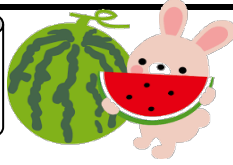


薬の飲み方



薬は食後に飲む、と決まっているわけではない。病気や症状に合わせ、その薬の効き目がもっとも適切に発揮できるように飲み方が決められている。飲み方を守らないと、せっかく飲んでも効果が十分に出ないことがある。

<食後(食後30分以内)>

食後に飲むと胃への刺激が少なくなる。食事のたびに飲むと決めておくと、飲み忘れが比較的少ないこともメリット。

<食前(食事の約30分前)>

<食間(食事と食事の間の空腹時 目安は食後の約2~3時間後)>

空腹時に飲む方が、吸収されやすい薬は食前や食間に飲む。

漢方薬は、空腹時に飲むと成分が吸収されやすいので、食前か食間に飲むとされていることが多い。

<就寝前(寝る前の約30分~1時間前)>

寝る前に飲む薬には、便秘や睡眠に関する薬がある。

<頓服(症状があるとき)>

解熱薬や片頭痛薬のように、症状がある時に飲む薬。

<飲み物>

薬の吸収や作用に影響を与える飲み物があるので、飲み物なら何でもよい、というわけにはいかない。

錠剤やカプセル剤、粉薬などはコップ1杯の水かぬるま湯で飲む。そうすると、薬が十分な水に溶けて吸収されやすくなる。

水が少ないと、薬が食道や胃、腸の粘膜にくっついて溶け出し、粘膜に炎症などのダメージを与える心配がある。体のためにも、コップ1杯の水かぬるま湯がおすすめ。

※水なしで口の中ですぐに溶けるタイプの薬(口腔内崩壊錠など)は、水なしで飲んででも良い。(水と一緒に飲んででも構わない)

話題の新薬 ケレンディア錠10mg、20mg

慢性腎臓病治療薬

ケレンディアは、バイエルで開発された慢性腎臓病(CKD)に用いる非ステロイド型選択的ミネラルコルチコイド受容体(MR)拮抗剤である。本剤は、MRに選択的に結合し、アルドステロンなどによるMRの過剰な活性化を抑制することで、腎臓・心血管障害の発症や進展抑制に寄与する。効能・効果は、2型糖尿病を合併する慢性腎臓病(末期腎不全、透析施行中の患者を除く)。通常、成人にはeGFRに依りて1日1回経口投与する。投与開始、再開、増量から4週間後、その後も定期的に血清カリウム値やeGFRを測定し、用量調節が必要。

薬価は 10mg1錠 149.10円
20mg1錠 213.10円

副作用情報 デキサメタゾン

褐色細胞腫の合併を認識していなかった状態でデキサメタゾン製剤(経口剤及び注射剤)を投与した際に褐色細胞腫クリーゼを発現したとの報告がある。

そのため、「本剤投与後に著明な血圧上昇、頭痛、動悸等が認められた場合は、褐色細胞腫クリーゼの発現を考慮した上で適切な処置を行うこと。」が重要な基本的注意に追記された。

経口補水療法

経口補水療法(ORT)とは、脱水症の改善及び治療を目的として水・電解質を経口的に補給する治療方法。

脱水症は、何らかの理由で水分の補給量が喪失量に追いつかなくなった時に起こる体液量が不足した状態で、水分不足のみならず浸透圧物質(Na⁺を主とする電解質)不足も伴っているため、脱水症の治療には水分だけでなく適度な電解質の補給も行う必要があるとされている。

ORTで使用される飲料を経口補水液(ORS)といい、水・電解質の吸収を促進させるために、少量のブドウ糖が添加されている。

市販のスポーツ飲料等は、ORSに比べてNa⁺濃度が低くブドウ糖濃度が高いために、胃から小腸への排出及び小腸から血管への吸収が遅れること、大量摂取に伴い摂取エネルギーが過剰になることより、熱中症の第一選択の治療として用いるのは好ましくないと考えられている。

